

短歌

末武 有二 選

シラハギをそよると揺らし秋風のほろほろ花  
を散りこぼしゆく 安永 守住 孝子  
コロナ禍に5カ月ぶりで集いたり笑顔で踊る  
今日の日樂し 惣領 島田 廣子  
アオムシを求めて夫と遠出する喜ぶ孫の顔を  
見たさに 木山 本田 龍子  
夕餉<sup>ゆうげ</sup>み茜の空にしみじみと今日一日の無事  
をば感謝 江津 高田芙佐子  
紅葉がきれいねと友が言う季節が見えるわが  
里山よ 宮園 島 みつき  
夜更けて咳が止まらず目を覚ます秋の夜長に  
時計の音だけ 広崎 日野ヒロ子  
色付いた田園眺めて思うこと玩具のような作  
業具どこに 田原 永田巳智子  
おそろいの麦わら帽子取り合いて黄色い声は  
秋空高く 広崎 瀬戸サイ子  
ひと夏を越えた庭の片隅にシユウメイギクは  
秋を告げ咲く 宮園 田島 安代  
江津湖畔ホテイアオイの花を見る生きる力は  
刈り取られても 古閑 本田 律子  
気を付けていってらっしゃい出勤時娘は好き  
なマスクを着けて 赤井 鈴木 駒

俳句

河野 全平 選

わが庭にしばし遊べや秋のチョウ  
孫娘亡夫に見せた七五三 古閑 今村 恒心  
保育園マスクで並んで運動会 惣領 阪口由美子  
秋空や親しき山の噴火かな 木山 工藤あつこ  
アサガオが絡みそうなるへちまかな 田原 永田巳智子  
運動会孫の土産は一等賞 赤井 鈴木 駒  
こも巻きや神木守る虫の宿 木山 本田 龍子  
稲刈りの早し新米届けけり 江津 高田芙佐子  
川風の優しさに添ふ秋桜 福原 山崎 深士  
田原 辻ヶ峰子  
一句鑑賞 菊池 登志  
精いっぱい鳴いたセミが埋めてやる

川柳

布田川左門 選

『お題』 自由詠  
くま鉄の一部開通肩たたく 人吉温泉  
6人句会コロナ欠席お二人様 老人会  
待ちわびて打つワクチンは輸入品 木山の正巳  
ストレスがコロナ太りに輪をかける 赤井の天才

次回のお題 「文化財」

『お題』 ガラケー電話  
スマホ手に取ってはみたが音を上げた スマホ音痴  
ガラケー大好きおらが耳にはなじんでる 遠めがね  
ガラケーがおしゃれの頃を懐かしむ 苔むす昭和人

投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場広  
報係まで。締切は毎月15日(必着)です。



益城の文化財  
町文化財保護委員会

木崎

浄恩寺 谷口山  
もりかみこうめい  
森上高明の墓

開かれた当時中尾の谷口にあつた浄恩寺は、現在木崎にあり、地元のお寺として親しまれています。お寺の楼門から入った境内に、ひととき大きな墓があります。「森上家累代之墓」の墓標は、5歳はあろうかというものです。

森上氏の名は卯平、通称初太郎、晩年高明と改めました。明治12年6月2日に生まれ、明治23年に小学校を卒業。父又次郎が経営する雑貨商兼酒造業が経営不振に陥ると、21歳で海外を志し、単身密かに離郷しました。大正6年の春、中国・大連に満州商船株式会社を創立。社長となり、海外貿易に精励してわが国屈指の資産家となりました。

熱烈な郷土愛を持ち、今の自分があるのはすべて神仏の助けと郷土の人々の恩によるものとして、